

事業所名 放課後デイサービス ガジュマル

支援プログラム (参考様式)

作成日

2024 年

10 月

1 日

法人 (事業所) 理念		「誰一人取り残さない社会」を目指し、地域社会の「ともに不足を埋める」活動を、福祉事業を通して実践し積み重ねる。誰もが未来で「支えられる」側にもなり、「支える」側にもなる前提で、いかなる身体機能の制限があっても、ありのまま生きてきた経験や尺度を活かしどちらの役割も、自然体で実現する仕組みを法人と地域で実現する。子どもは大人になるまでのそれぞれのフィールドで自然発生的成長の機会を、成長する意欲をもって受け止め、日々の積み重ねにより、ともに生きることそのものの、尺度を高め、共生社会を体現することができる。成長意欲、暮らす意欲、存在する意欲がおぼろげな子どもには意欲が湧くような機会を提供し、今世を四苦八苦、面白くないものを面白く、何気ない日々の幸せに気が付け感謝し、人と人がつながり社会が成り立っている実感ももてるような関わりを提供する。			
支援方針		<p>①個々の困りと得意に焦点をあてた関りと個別療育 いずれ社会に出たときに、役に立つ力を身につけるために、まず私たち大人が「知る」ことが大事だと考えています。子供たち一人ひとりに対して、困っていること、目を輝かせること、高い集中力を発揮することなどを注意深く見守っていきます。</p> <p>②楽しい×療育 昔遊びや保育遊び、様々な遊びはいろんな効果を発揮し、子供を育てます。遊びを通して、しっかりと身体を使い、頭を使い、感覚を育て、第六感部分を鍛えることを大事にしています。</p> <p>③能力発揮の場としての集団療育 協調性や生活能力や社会性など、成長の様子を計るものさしとして、集団療育でクッキングや、野外活動買い物学習などを行っています。</p> <p>④子供と保護者の心を大切にサポート 子供が穏やかに過ごせるように環境を整え、子供の話を聞く姿勢を持つことを意識しています。学校で頑張った分、お家では穏やかに、家族との時間を持ってほしい。そのためにもできる範囲でさせてもらっています。孤独で不安な保護者が多い時代。保護者がお疲れの時には助け舟を自然と出し、辛い時をともに超えたいと考えています。</p> <p>⑤子供もスタッフも楽しく取り組める療育 子供は大人をよく見えています。ともに楽しみ、真剣に向き合ってくれる大人は誰か、よく知っています。嫌々やっても効果は半減。だからスタッフも、笑顔で楽しく取り組める療育にしたいと思います。</p> <p>⑥自助共助で急場を凌げる地域共生の仕組みを構築 自立支援協議会や学校・医療機関など関係機関と定例会での交流を継続的に参加します。地域の中で協力を前提とした信頼関係づくりと、地域の子どもや住人を中心に置いた支援者同士の人間関係の積み重ねを意識し、積極的に関わっていきます。</p>			
営業時間		11 時 0 分から	19 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	①健康観察・検温②平日・休日基本プログラムに沿って支援提供③個別トレーニング実施④記録伝達・保護者との情報交換⑤食事や水分摂取の支援⑥排泄の支援⑦保清の支援⑧環境調整の支援⑨休息の支援⑩子どもの命と権利が守られる支援⑪性教育⑫心の健康の学習			
	運動・感覚	①自然発生の行動や遊びを見守られる支援②ビジョントレーニング・感覚統合・粗大運動・微細運動③音楽遊び④感覚遊び⑤登山や屋外遊園地での活動⑥苦手な感覚は苦手の度合いが我慢できないレベルのもの以外は要素を10段階に分解してレベル1から慣らしていく。視点を未来視点にスライドして結果点を下げることで「できない」から「できた」に変わる場合もある。			
	認知・行動	①安全危険認知のトレーニング②災害時シミュレーション訓練③認知行動療法の要素を取り入れた訓練④道徳や宗教について知る機会提供⑤心の健康を保つためのマインドセット・セルフトーク・セルフコンパッション・瞑想など技術訓練⑥パーソナルトレーニング・呼吸法のビジョントレーニング⑦生活技術全般の積み重ねの機会提供⑧逃げる・助けを求める練習⑨ICT活用⑩絵カード活用⑪専門職による発達検査と成長に合わせたトレーニングの設計と関係機関への連携			
	言語コミュニケーション	①支援者との信頼関係づくり②ミラーリング③ユマニチュード④遊びを通じて言葉のやりとり⑤語彙をふやすマッチング⑥STによるトレーニング⑦専門職による発達検査と成長に合わせたトレーニングの設計と関係機関への連携⑧絵本や昔話など情緒育成の取り組み⑨おもてどうグッズ・ボックス使用での視覚支援⑩ICT活用			
	人間関係社会性	①共同注視②ミラーリング③共同注意④社会的参照⑤ラベリング⑥ポジション交換⑦演技※他者理解⑧自己理解⑨自己理解⑩自己有脳幹⑪メタ認知⑫継続し積み重ねる。⑬スキーム形成パターンの観察と心理的バイアス・ダブルバインドの見極めと解除⑭家族力調査			
家族支援	家族からの相談に応じ、安心して健全に子育てに向かえるように支援する。	移行支援	必要に応じて適切に合理的配慮がなされ、誰もが「参加する」という権利が保障されるよう支援する。		
地域支援・地域連携	地域の困りごとを、地域の方々と共同して解決していく。誰もが「支える」側にも、「支えられる」側にもなり、自助共助で急場を凌げる地域共生の仕組みをともに考え構築する。自立支援協議会や学校連携を行い地域力向上に向け話題に出しともに行動していく。	職員の質の向上	ガイドラインのテスト・書き取りを行い、インプットする。毎月学習機会を会議のなかで15分など短時間でいいインプット・アウトプットの場を作る。支援のすり合わせのミーティングで個別対応を具体的に考えるなかでガイドラインの枠で言語化し、実践の現場で尺度を高め、振り返りで専門職としての不足を自分から気づき次の目標設定を行い、成長し続ける仕組みを継続する。資格取得の外部研修や、オンライン研修など有給で学習できる仕組みを継続する。個別のケーススタディを行い、現場の学びから経験の知を得て、根拠を調べて尺度を高める。		
主な行事等	<p>毎月の予定表通り・毎月季節の工作を1人1作品作成。毎週末休日のクッキング実施による、自助・共助の意識と技術を育む活動。</p> <p>毎月の運営会議内にて各委員会報告や、研修周知、各事業所での取り組み報告。現場支援者、管理者・児童発達支援管理責任者から法令順守についても周知。工作担当者、誕生日会担当者、ST管理担当者、事務担当者、人事労務管理担当、経理担当も出席または翌日～3日以内に伝達。議事回覧時は押印またはサインする。電子ツールの周知の場合はコメントを残し、コメントのないものについてはコメントがあるまで、共有した人が確認を促す。</p> <p>モニタリング 年2回 ガジュマル 6月 12月 ガジュノネ 3月 9月 ※両事業所の登録がある人は 3月 9月に実施</p> <p>防災訓練 4月 経路確認 5月 避難梯子訓練(消防署・消防団との連携) 消火訓練 7～8月 地震・暴風・水害・土砂・火災シミュレーション研修(防災センター) 9～3月 引き渡し想定すり合わせ・防災知識共有(モニタリング時) 3月春休み期間 防災食試食会 経路確認 消火訓練(ローリングストックについて、食べ慣れる積み重ねの機会)</p> <p>祝日など国民の休日・長期休暇期間の営業日に楽しみながら学べるイベント実施 意味を学ぶ企画を実施。遠足・クッキング・・・能力発揮の場として現状の力を見極める。四季折々の日本行事や、季節ならではの体験を行い、時感覚を養う。暮らしの経験を積み重ね技術習得の機会提供を行う。</p> <p>GW子どもの日イベント、夏祭り、スポーツデイ、芋ほり、秋見つけ散歩、クリスマス会、こども忘年会(大掃除とおたのしみランチ)、新年会(おまいり、正月遊び)、春みつけ散歩</p>				